



# 賀 謹 2008 年頭

# 市 町 村 合 併



# 新 年 の ご あ い さ つ

新年明けましておめでとうございます。  
今や、自治の世界にも市場原理が蔓延し、厳しい時代を迎えています。

国や地方自治体の役割はできる限り小さくし、民間でできることは民間に任せるという考え方が主流となっている昨今、地方自治体の間でも自由を拡大し、責任を強化することによって地方の自立を図る考え方が有力化しています。

しかしながら、民間は受益に応じ対価を支払う自己責任の世界であるのに対し、公共は社会が必要とする財源を、各人が負担することを基本としており、相互扶助の精神の世界であります。

したがって、地方公共団体の役割が小さくなればなるほど、人々の格差が拡大することは、当然のことと言えます。

そのような中、財政基盤を安定化させること、地方分権化すること、基礎自治体の体力を強化さ

せることは、これからの自治体の存亡に大きくかわってくるものと考えられます。

そこで、市町村合併は最大の行財政改革であり、住民サービス・多様化する住民ニーズに対応する最大の手段であると思います。

しかし、今回の糟屋6町の合併問題は、2町の否決によって白紙に戻りました。

今後の考え方としては、新たな道を模索していかなければならないかと思えます。

これからの行政は、自然と共生した安全・快適なまちを目指し、住民との協働によって、創り上げていくことが最大の役割だと思えます。

迎えました新年が、みなさまにとりまして健康で幸せ多き飛躍の年になりますよう、お祈り申し上げ、戌子の年頭のあいさつといたします。

須恵町長 中嶋 裕史

# 自 助 努 力

新年明けましておめでとうございます。  
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平成20年、節目の年を無事に町民の皆様と迎えることができ、心からうれしく感謝を申し上げます。

しかし、長年この糟屋地区の懸案でありました合併問題が、昨年12月の各町定例議会において法定合併協議会設置議案が粕屋町・久山町で否決され、これにより6町での枠組みは現在白紙となっています。

糟屋中南部6町は、福岡市百四十万都市周辺の比較的条件の良い全国の自治体合併のモデルとして注目を集めていました。

少子高齢化、人々の価値観の多様化、情報・IT産業の急激な変化に対応出来る中核都市として、小異を捨てて大同団結、新しい市の街づくりの夢を抱だいていました。

この地域の20年、30年先に、子や孫の時代にまで禍根を残すような選択肢に残念でなりません。

しかしながら、須恵町として今後、別の形での合併を考えるのか、単独での生き残りの道を模索するののか、決断を迫られる大事な年を迎えることになりました。

どちらにしましても、町は国や福岡県に対して積極的な財源確保の活動展開を余儀なくされ、今まで進めて来ました継続事業や住民サービスは勿論のこと、行財政改革の見直しを行政も議会も、今までのスタンスを変え、スイッチをリセットしそして、町民の皆様も自分達で出来る事は、自ら行わなければならないと思えます。

議会と致しましても、住みよい町づくりを目指して、議員一致団結し一人一人が努力研鑽を重ね、町民の皆様の負託と信頼に応えて参る所存です。

一層のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます、年頭のあいさつといたします。

須恵議会議長 藤石 豊